

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799200031		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ鶴見今津(マンゴ)		
所在地	大阪府大阪市鶴見区今津南1-6-8		
自己評価作成日	H22年3月18日	評価結果市町村受理日	H22年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2799200031&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、なじみの関係を築きながら、一人ひとりのペースに合わせてゆったり寛いで頂けるようなホーム作りを目指しております。お誕生日会や音楽会、豆まきやクリスマス会等、行事を楽しんで頂けるよう企画しております。お食事はスタッフの手作りで、出来立てのものをすぐに召し上がって頂きます。定期的にお蕎麦の実演やお寿司の実演にて、昼食のイベントがあり喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホーム内は、利用者一人ひとりのペースで過ごせる穏やかな空間が広がり、ゆっくりとした時間が流れています。職員は「その人らしく」を第一に考え、自立支援を心がけたケアサービスを提供されています。地域との関係が良好で、防災訓練に積極的に参加し、避難場所にホームを提供するなど具体的な協力体制を構築すると共に、地域の方々に、花壇の手入れの手伝いをして頂いたり、気軽に立ち寄って頂いたり、親密な交流がなされています。家族との連携も密に図られ、年に2回は家族会を開催し、ホームと家族とのコミュニケーションも良好です。また、提携医以外でも、眼科、皮膚科、歯科、泌尿器科、心療内科といった往診の診療科目が多く、疾患を持つ高齢者にとっては安心の医療体制が整えられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社は「誠意・誇り・情熱」の他、法人のマナーアップとしての7つの心得、事業所の目標が掲げられている。	「私たちは向上心を持って、サービスの質を追求します」というホーム独自の理念は職員全員で考えて作成しています。サービスの向上を目指す事で、地域での普通の暮らしに繋がるという意味を含んでいます。その理念を玄関に提示し、職員間で話し合いを重ねる事で意識付けをしながら、質の向上に繋がっています。	ホーム独自の理念を作成され、前向きに取り組まれています。家族や地域の方が来訪された際に、掲示を見て地域の中での暮らしについて理解できるように、文言を付け加えられてはいかでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているため、定期的に関覧板にて、地域の情報を得る等し、交流をはかっている。地域の防災訓練に参加している。	町内会に加入し、利用者と一緒に回覧板を持っていたり、散歩時には立ち話をしたり、隣からは窓越しに声を掛けらる等の交流があります。ボランティアが来訪し花の手入れをしてくれており、馴染みの関係が作られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回ホーム会議を開き、話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域ネットワーク委員会・地域包括支援センター職員・管理者が参加する運営推進会議が2ヶ月に1回開催されている。ホームの活動状況の報告や参加者からの要望・助言を得る機会としている。	2ヶ月に1回、利用者、家族、地域ネットワーク委員会代表、地域包括支援センター職員、管理者、職員をメンバーとし、運営推進会議を開催しています。利用者の様子や行事報告等をし、参加者からは意見や情報をもらう等、有意義な話し合いの場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は連絡をとって対応している。	介護保険認定更新時や退居について、問い合わせや相談等に行っています。また、介護保険制度についても情報をもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームに「身体拘束委員会」を配置し、月1回話し合いをしている。	ホーム独自に身体拘束委員会を開催し、拘束をなくすよう話し合っています。現状では見守りに限界があり、安全を優先する利用者には、家族に身体拘束同意を頂き、ベッドに4点柵を使用しています。また、各ユニット入り口も施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な話し合いやプリントの読み合わせを行い、高齢者虐待について学び、虐待防止に努めている。また、日々の暮らしの中で、かわったことがないか、スタッフ・お客様の様子を良く観察している。		

ニチイのほほえみ 鶴見今津(マンゴ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時は活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の話をよくきき、こちらからも十分な説明をしている。時間をかけて、今後の打ち合わせをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に1回「家族会」を開いて、ご意見・ご要望をお聞きしている。また、2ヶ月に1回運営推進会議に、どなたでも参加できるようにしている。お聞きしましたご意見・ご要望は、少しずつでも改善できるよう努めている。	6ヶ月に1回家族会を開催し、多くの家族に参加頂いています。運営推進会議や家族の来訪時にも話を聞き、またアンケートも実施しており、意見や要望等を把握しています。頂いた意見や要望に対しては職員会議で改善策を話し合い、家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議の中で、スタッフの意見を聞いたり、日常の中で個別に聞くこともあります。一人ひとりの意見を大切に、運営に反映できるよう、心がけている。	管理者は職員会議等で職員の意見や要望、提案を聞いてサービスの向上の質に反映させています。職員一人ひとりの状況を把握し、業務改善を加えながら、働きやすい職場作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に目標を定め、向上心を維持できるようにしている。3年経過したスタッフには介護福祉士の取得・5年経過したスタッフにはケアマネジャーの取得を推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内に「教育・研修委員」を配置し、毎月ホーム内研修を開催している。また、外部研修の回覧をし、個別に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や交流をして通じて、質の向上をめざしている。ニチイのほほえみは大阪にもたくさんあり、交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何にお困りなのか、どうゆうことについて不安なのか、ゆっくり・じっくりと話を傾聴するようにしている。訴えをそのまま受け入れ、信頼関係が築けるよう、心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお困り事を、話しやすい雰囲気でお聞きするようにしている。話にくい内容等は、言葉に隠された内容がないかも注意して、お聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	臨機応変に対応している。本人とご家族様にとって、何が必要か考え、提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの生活者の一員として、支えあう関係を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、スタッフから家族様へ、近況報告を含めお手紙を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様やお知り合いの方のご面会は、ご自由にして頂いてる。	ホームに気軽に寄っていただけるように、場所の目印を付けたり、玄関周りには季節の花を植えて工夫をしています。面会には自由に来て頂き、電話での対応もしています。また、花の手入れ等で近隣の方々にも気軽に立ち寄って頂いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や入居者間の関係を理解することで、スタッフ間に入り、かかわりを持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要な方には対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・常にご本人の立場で考え、出来るだけ意向に沿う様に努めています。	センター方式を活用し、利用者、家族から得た情報を基に、一人ひとりの思いや希望を把握しています。また、日常の会話からも思いを把握し、職員間で共有を図っています。困難な場合には表情や行動等で把握に努め、家族に代弁で協力を得たりしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人やご家族様に生活歴、趣味、嗜好等をお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の暮らしの様子観察し又スタッフ間も情報交換しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、ご家族様の要望に配慮して介護計画を作成し、問題点や課題がある都度話し合いを実施しています。	利用者の状態を職員間で話し合い、医師の意見を反映した介護計画を作成しています。計画書の希望欄は、直接利用者や家族に書き込んで頂き、より希望が反映される計画となっています。1ヶ月に1回モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しています。状態変化時には、その都度、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々個人ケース記録を記入し介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・可能な限り、ご要望に対しては前向きに捉え多角的に考え柔軟に対応しています。		

ニチイのほほえみ 鶴見今津(マンゴ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・お客様の趣味嗜好を把握し、希望に沿いスーパーや喫茶店・公園等、同行利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期往診を導入、要望または必要あればご家族に立ち会って頂き納得感のある医療連携に努めている。	利用時に希望を聞いて主治医を決めています。医療連携も取られており、主治医や眼科医、皮膚科医が月2回、歯科医、泌尿器科医、訪問看護が週1回、心療内科医が月1回の往診があり、安心の医療体制が整っています。訪問マッサージを希望の回数受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護と連携し、お客様の健康チェックを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・主治医、病院関係者と密に情報を交換、共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご家族や主治医と話し合いスタッフ間でも方針の共有に努めています。	ターミナルについては、要望があればホームで、できる事やできない事、医療処置の必要がなければ対応できる事等を家族に説明した上で、同意を得ています。ターミナル期になれば、家族と医師とその都度話し合いながら取り組む体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・スタッフは有資格者で構成、救急法等講習にも積極的に参加して急変、事故発生時の手順についても掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署を招いてや地域自治会との訓練の参加、非常時の物資準備をしています。	消防署立ち会いのもと、年1回避難訓練を行い、避難経路の確保、消火器の使用方法や通報訓練をしています。ホーム独自でも実施し、また、地域の防災訓練にもホームより参加し、避難場所の確認や逃げ遅れのないように安否確認目印の把握、また必要に応じてホームを避難場所に提供する等、具体的な協力体制を構築しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人格や生活歴を把握し声かけ、介護、記録についてプライバシーの配慮に心掛けています。	トイレの誘導の際の言葉がけには、細やかな配慮に心がけています。個人記録物等の内容によってはイニシャルで対応し、プライバシーに充分配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・お客様に応じた対応を心掛け納得してもらえる様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個々の生活リズム、ペースに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・要望により訪問理容を利用してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・スタッフが調理を手がけ家庭的なものにしています。又出来る範囲でお手伝いをしています。	利用者に下ごしらえやテーブル拭きや片付け、おやつ出し等、できることを手伝って頂いています。利用者の誕生日には好きなメニューにしたり、ボランティアによる蕎麦うちや寿司の実演は利用者の楽しみとなっています。	職員1人でも同じ物を食べて、楽しい時間を共に過ごせるように検討されてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分量は常に記録して管理に努め変化に応じて医療関係と連絡、相談し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアとして歯磨き誘導や声かけ、入れ歯の洗浄を実施しています。		

ニチイのほほえみ 鶴見今津(マンゴ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の状況に応じた、プライバシーに配慮した支援を実施している。	排泄チェック表の活用と、利用者の行動から排泄パターンを把握し、定期的にトイレへの声かけや誘導をしています。むやみにおむつを使用するのではなく、リハビリパンツやパットに変えるなど自立に向けた支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分量のコントロール、体操、体を動かしての予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・希望される方には出来るだけ入浴して頂ける様支援しています。	週2回、利用者一人ひとりの状態に合った入浴の支援をしています。利用者の状態によっては、清拭やドライシャンプー、シャワー浴で対応したり、拒否される方には家族の協力を得たり、声かけやタイミングを変えて対応をしています。立位の困難な方には安全に配慮して二人介助で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・全個室の為安心して眠れる環境になっています。又テラスに椅子を設置し休息できる様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の説明書をファイリングし、情報を共有、症状変化については迅速な医療関係との対応に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・趣味、嗜好に応じた支援<散歩、買い物、庭いじり等>を実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・ご家族と共に外食や外泊する方もおられます。	午前中に1回、必ず散歩に出かけ、希望があれば買い物や散歩での個別外出もしています。庭やテラスに出るだけでも気分転換が図れ、外気に触れながら季節を感じるができます。	

ニチイのほほえみ 鶴見今津(マンゴ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お買い物には同行し、個人のおこづかいより支払い、ご本人、ご家族様に明細をお伝えしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望に応じてご家族、知人に電話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビング、廊下には季節感のあるディスプレイをしてお客様にとって安心、安全な環境づくりに努めています。	玄関、リビング、廊下の共有空間には、季節感のある装飾や写真が趣味良く飾られ、観葉植物も置かれています。テーブルの上にも季節の花が飾られ癒されています。広いテラスはお茶の時間を楽しんだり、外気浴で気分転換できる居心地の良い場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各個室の為独りの時間は確保されリビングには入居者数以上の椅子を用意し自由に気の合った者同士にて過ごせます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室においての家具、寝具、衣類はご家族様相談の上使い慣れているもので自由にレイアウトして頂いています。	居室には、使い慣れた家具や鏡台、ベット、テレビ置かれ、家族の写真や好みの柄のカーテンが掛けられ、利用者の好みに合わせた居室となるように支援しています。大切な仏壇を持ち込まれている居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・施設内<廊下、トイレ、浴室等>には段差がなく手すり、非常ベルがついています。玄関についても車椅子にて往来できる様スロープになっていて手すりもついています。		